

Japanese A: literature – Standard level – Paper 1
Japonais A : littérature – Niveau moyen – Épreuve 1
Japonés A: literatura – Nivel medio – Prueba 1

Monday 9 November 2015 (afternoon)
Lundi 9 novembre 2015 (après-midi)
Lunes 9 de noviembre de 2015 (tarde)

1 hour 30 minutes / 1 heure 30 minutes / 1 hora 30 minutos

Instructions to candidates

- Do not open this examination paper until instructed to do so.
- Write a guided literary analysis on one passage only. In your answer you must address both of the guiding questions provided.
- The maximum mark for this examination paper is **[20 marks]**.

Instructions destinées aux candidats

- N'ouvrez pas cette épreuve avant d'y être autorisé(e).
- Rédigez une analyse littéraire dirigée d'un seul des passages. Les deux questions d'orientation fournies doivent être traitées dans votre réponse.
- Le nombre maximum de points pour cette épreuve d'examen est de **[20 points]**.

Instrucciones para los alumnos

- No abra esta prueba hasta que se lo autoricen.
- Escriba un análisis literario guiado sobre un solo pasaje. Debe abordar las dos preguntas de orientación en su respuesta.
- La puntuación máxima para esta prueba de examen es **[20 puntos]**.

次の文章と詩のうちどちらか一つを選び、設問に沿って分析し、解説文を書きなさい。
その際、二つある設問の両方に必ず答えること。

1.

さびしさは鳴る。耳が痛くなるほど高く澄んだ鈴の音で鳴り響いて、胸を締めつけるから、せめて周りには聞こえないように、私はプリントを指で千切る。細長く、細長く。紙を裂く耳障りな音は、孤独の音を消してくれる。気怠げに見せてくれたりもするしね。葉緑体¹? オオカナダモ²? ハッ。つていうこのスタンス。あなたたちは微生物を見てはしゃいでいるみたいで
5 すけど(苦笑)、私はちよつと遠慮しておく、だつてもう高校生だし。ま、あなたたちを横目で見ながらプリントでも千切ってますよ、気怠く。つていうこのスタンス。

黒い実験用机の上にある紙屑の山に、また一つ、そうめんのように細長く千切った紙屑を載せた。うずたかく積もった紙屑の山、私の孤独な時間が凝縮された山。

顕微鏡の順番はいつまで経つても回つてこない。同じ班の女子たちは楽しげにはしゃぎながら、
10 かわりばんこに顕微鏡を覗きこんでいる。彼女らが動いたり笑つたりする度に舞い上がる細かい埃が、窓から射す陽を受けてきらきらと美しい。これほどのお日和なら、顕微鏡もさぞかしくつきりと見えることでしょう、さつきから顕微鏡の反射鏡が太陽光をチカチカと跳ね返して私の目を焼いてくる。暗幕を全部引いてこの理科室を真っ暗にしてみたい。

今日は実験だから、適当に座つて五人で一班を作れ。先生が何の気なしに言つた一言のせいで、
15 理科室にはただならぬ緊張が走つた。適当に座れと言われて、適当な所に座る子なんて、一人もいないんだ。ごく一瞬のうちに働く緻密な計算——五人全員親しい友達で固められるか、それとも足りない分を余り者で補わなければいけないか——がなされ、友達を探し求めて泳ぐ視線同士がみるみるうちに絡み合い、グループが纏まれていく。どの糸が絡み合つていくか、私には手に取るように分かる。高校に入学してからまだ二カ月しか経っていないこの六月の時点で、クラス
20 の交友関係を相関図にして書けるのは、きつと私くらいだろう。当の自分は相関図の枠外にいるというのに。唯一の頼みの綱だった絹代にも見捨てられ、誰か余っている人いませんか、と聞かれて手を挙げた、あのみじめさ。せめて口で返事をすればよかった。目をぎよるつかせながら、無言で、顔の高さまで挙手した私は妖怪じみていただろう。もう一人の余り者も同じ卑屈な手の挙げ方をしていて、やるせなかった。この挙手で、クラスで友達がまだ出来ていないのは私とそ
25 のもう一人の男子、にな川だけだということが明白になった。

人数の関係で私とにな川を班に入れざるを得なくなった女子三人組は、まるで当然というふう
に、余り物の華奢な木製の椅子を私とにな川にあてがった。あてがったというよりも、スムーズ
に私たちの所まで流れてきた、という方が正しい。余り者には余り物がしつくりくるのだ。いじ
めじゃないごく自然なことなんだ。似合うから、しつくりくるから、しょうがないんだ。椅子は、
30 背もたれや脚の部分は黒い塗装がところどころ剥げ落ち、木の部分が見えてしまっていて、オレ
ンジ色のクッション部分は虫に喰われており、他のみんなが使っているパイプ椅子に比べたら、
椅子としては失格なほどアンテイクだった。ちよつと動いただけで、椅子の四本の脚はポテト
チップスを噛み砕いている時のような、ぱりぱりした音を出してきしむ。だから音だけを静かに
動かして、私は横で私と同じ種類の椅子を使っているもう一人の余り者を眺めた。

35 彼は、先生に見つからないように膝の上で雑誌を読んで時間を潰していた。いや、あれは読ん
でいない、ポーズだけだ。だつて暗い表情で、どこも見えていない虚ろな目で、ひたすら同じペー
ジに目を落としてしている。(略)しかし、この彼はどつちかおかしい。何が間違っているのか分からない、
けれどこの人をじつと眺めていると、味噌汁の、砂が抜けきつていないあさを噛みしめて、じゃ
りつときた時と同じ、ものすごい違和感が一瞬通り過ぎていく。分からなくてもどかしい。どこ
40 かな、何が間違っているのかな。

ああそうだ、彼の雑誌が、おかしいんだ。片眉を上げてこちらを見据えている女モデルが大写
しになっている表紙、「カジュアル夏小物で GO！」という見出し——女性ファッション誌じゃ
ないか。洒落た OL が愛読してそうなやつを、読んでる。授業中に堂々と広げている。

負けたな。

綿矢りさ『蹴りたい背中』二〇〇三年

1 『葉緑体』：緑色植物の細胞中に存在する色素体。

2 『オオカナダモ』：北アメリカ原産のトチカガミ科の水草。池や沼にはえる。

(a) にな川は語り手にとってどのような人として描かれ、またそれは語り手が自分自身について
考えていることをどう表していますか。

(b) この文章における語調の特徴は、主題を理解するうえでどのような効果をもたらしています
か。

2.

無題

風 吹いている
 木 立っている
 ああ こんなよる 立っているのね 木

風 吹いている 木 立っている 音がする

5 よふけの ひとりの 浴室の
 せつけんの泡 かにみたいに吐きだす にかいあそび
 ぬるいお湯

なめくじ* はっている
 浴室の ぬれたタオルを

10 おまえに塩をかけてやる
 するとおまえは いなくなるくせに そりにいる

おそろしきとは
 いることかしら
 いないことかしら

15 また 春がきて また 風が 吹いているのに
 わたしはなめくじの塩づけ わたしはいない
 どこにも いない

わたしはきつと せつけんの泡に埋もれて 流れてしまったの

ああ こんなよる

- * 『なめくじ』… 陸に生息する巻き貝のうち殻^かが退化しているもの。体表に塩をかけると水分が抜けて溶^とけるように見える。
- (a) この詩には作者のどのような思いや気持ちが表れていると言えますか。
- (b) この詩の構成や言葉の使い方など表現上の工夫と、その効果について述べなさい。
-